

令和5年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 第1回会議 議事要旨

【日 時】令和5年（2023年）7月21日（金）18時00分～20時00分

【場 所】豊中市役所第二庁舎5階第1会議室

【出席者】石川委員、岸本委員、高橋委員、吉村委員、植田委員、古川委員、重長委員、濱田委員

【欠席者】なし

【事務局】藪床都市経営部長

都市経営部経営戦略課：森田、田中、高橋、島、松田、麻田、大重

【傍 聴】1名

【案 件】1. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括の諮問について
2. 昨年度の振り返り
3. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について
4. 令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業報告について
5. その他

【資 料】資料1 総合戦略委員会に係る規則等について

資料2 委員名簿

資料3 令和4年度豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会審議結果について

資料4 第2期総合戦略のKGIとKPIの進捗状況について

資料5 転出入アンケートについて

資料6 デジタル田園都市国家構想交付金実施事業報告について

参考1 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略

参考2 デジタル田園都市国家構想実現に向けた豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略

参考3 転出入アンケート質問用紙

【会議録】下記のとおり

■開会

■成立要件の確認（事務局）

本審議会規則第7条第2項に基づき、会議の成立には委員の過半数の出席を必要としています。本日は、委員総数8名中、すべての委員の出席がありましたので、成立要件を満たしております。また、本日は傍聴者が1人来られています。

■資料の確認（事務局）

■案件1. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括の諮問について

（事務局から諮問書の内容を確認）

会長

確かにお受けいたしました。

■案件 2. 昨年度の振り返り

会長

続けて、案件 2「昨年度の振り返り」を事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料 3「令和 4 年度豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会審議結果について」説明)

■案件 3. 第 2 期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について

会長

続きまして、案件 3「第 2 期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について」事務局から説明をお願いします。

事務局

(「資料 4「第 2 期総合戦略の KGI と KPI の進捗状況について」「市の現状と課題、現在検討している経営戦略(スライド)」について説明)

会長

ただいま事務局から説明を受けた第 2 期総合戦略の結果と、それを受け市が現在検討している方針について、何かご意見やご質問はありますか。

委員

国内経済の活性化において、人口の増加は必須であると考えていましたが、直近の死亡者数の増加などを見ていると、出生数ではカバーできない状況が続いています。人口の減少幅が縮まるに越したことはないですが、人類の歴史等も考えると、今後は人口増の道を探るよりも適正人口を考えていく時代になっているのかもしれないですね。

委員

日本における高齢化の波は避けられないものであり、コロナ禍を脱却したとしても今後死亡者数は増加傾向が続くと考えます。高齢化についても、基礎自治体単位で歯止めをかけることは難しいでしょうし、今回の第 2 期総合戦略の結果に限らず、人口の増減に一喜一憂することはないのではないのでしょうか。

それよりも、今からの時代を担う世代が暮らしやすいまちをつくる取組みを進め、若い世代が豊中で生活し続けることに安心と希望を持てるようなまちにしていくことで、地域の経済循環が生まれ、ひいてはそれが子育て世代だけではなく全ての世代にとって暮らしやすいまちにつながるのではないかと考えます。

委員

人を呼ぶために「いい町にしていこう」という今のお話や取組みというのは、民間企業に例えると「企業を発展させるための経営方針」だと思います。それを考えるのは民間では「総務」機

能になると思いますが、実際に会社を強く発展させていくのは「営業」の部分が重要であり、市は「営業」の部分を強化していくべきではないでしょうか。

委員

確かに、さまざまな取組みを行ってもそれをPRしなければ、成果には結びつかないと思います。そういう意味では市内外の方々への取組みの周知は必要ですし、周知するための「営業力」も必要だと思います。「総務」と「営業」のどちらも重要であり、両輪で市の活性化につなげていただきたいと思います。

委員

今後の市の取組みについて、具体的にどのような施策を進めていくのかに興味を持っています。

出産・子育ての壁を乗り越え、少子化に歯止めをかけるためには、経済負担の軽減も必要ですが、それだけではなく、地域全体で子育てをしていくいわゆる「子育ての社会化」を進めていく必要があると考えます。子育てにおいて一番経済的負担が重いのは義務教育終了後でそこに不安を感じている人も多いと思いますので、市町村においては、給付金のような一時的な経済的な負担軽減よりも、子育てをしやすくするための環境整備に力を入れていただき、そこに投資をしていくほうが10年先を見据えた有効な投資になるのではないかと思います。豊中市が子育て世代に力を入れていくということで、どちらの方向性で進めていかれるのかを教えていただけたらと思います。

委員

子育てをしやすくするための環境整備として、市内の事業所にも着目すべきではないかと思えます。

住宅地としてのイメージが強い豊中市ですが、府内でも有数の事業所数を抱える地域です。特に空港線を境目に、市内の西部・南部には事業所が集約しています。これらの事業所に、子育て世代が長く働き続けられるような環境を整備するための施策を取れば、定住率も上がり、地域経済も循環し、子どもを産み育てやすいまちになるのではないのでしょうか。

委員

労働環境の目線見ると、当然子育て世代への投資も必要だが、高齢化が進む中では、高齢世代が働きやすい環境を整備し、若い世代の働く環境を支えていくことも必要であると考えます。

委員

環境整備や対外的なPRという観点でいえば、市内の小中学校の教育環境を整備するのも一つなのではないかと思えます。例えばトイレに関して、いまだに和式トイレの残っている古い学校もあり、学校では極力トイレに行かないようにしているといっている子どもがいるという声も聞きます。一方で、庄内さくら学園のように対外的にPRできるような立派な学校もあります。

南桜塚小学校がメディアに取り上げられた際も、私の周囲の子育て世代の声は「学校がきれい」というものが非常に多かったです。

そういう意味で、教育環境のハード面の整備は、子育て世代へのアピールにもつながりやすいのではないのでしょうか。

委員

ハード面の整備でいえば、公民館を子育て世代や高齢者が集う多世代交流の拠点として活用していくのもよいと思います。他市の例ではありますが、宜野湾市では昨年公民館を建て替えました。そこでは公民館を拠点として大人だけではなく子どもたちも集まり、地域の人の活動の場になっており非常に賑わいがあります。豊中市の公民館や公共施設はかなり老朽化が進んでいるが、公共施設も地域拠点として市内の多世代交流の場としての機能を持つことも大切だと思いますがどうでしょうか。

また、人口の推移について近隣他市と比較した場合、吹田市は順調に増加していますが、このあたりの差が何なのかの分析ができれば次の施策へも反映させられるのではないのでしょうか。

事務局

ご議論のなかでいくつか委員のみなさまからご質問をいただいたので、まとめて回答させていただきます。まず、子育て世代への施策についての考え方についてですが、市の方針として、経済的支援は主に国が担い、子育ての社会化に向けた取組みを市が行っていく方向で考えております。

近隣市との人口比較については、吹田市や茨木市と比較すると大規模マンション等の開発余地の差が原因であると考えております。こちらも具体的なデータで再度要因を分析して参りたいと思います。

また、公共施設についてですが、おっしゃる通り、地域の賑わいの拠点となっているような地域もあります。当市においても、過去同時期に建設した施設の老朽化が進んでいることから、公共施設の有効活用についても検討が必要だと考えております。

会長

今後の市の方向性や取組みについて、非常に多くのご意見が出揃いました。またこれらの背景となる第2期総合戦略の実績については概ね計画通りの着地となりました。

総合戦略では、市の各部局が人口減少に歯止めをかけ地域経済の活性化を目指すための指標が揃っています。これらの各指標が示す結果が、どのような施策に対しどのような要因で出たものなのかを、詳細なデータに基づき分析されると、データに基づく意思決定や効果測定も可能になり、有効な施策立案につながると思います。また、それらを各部局がそれぞれ行うのではなく、各施策を横くしにさせて、市のめざす姿を実現するための施策として一体的に作り上げていけば、より大きな成果が得られるのではないのでしょうか。当委員会においても事務局からそのような資料をお示しいただけると委員のみなさまからもご意見をいただきやすくなり、議論も深まると思いますので、ご検討をいただけたらと思います。

続きまして、転出入アンケートについて事務局から説明をお願いします。

事務局

(「資料5 転出入アンケートについて」説明)

会長

統計上耐えうる回答数が400件/年ということですが、この根拠は何ですか。

事務局

本市の調査・研究を担当する部署に確認したところ、この規模のアンケートの場合、400程度の回答数が目安となると聞いております。

会長

わかりました。

さて、昨年の答申を受けて、現在回答数の向上に向けた取組みをされているわけですが、回答数を向上させる施策としては、抽選で沖縄旅行をプレゼントするといったようなインパクトのある取組みも必要かと思えます。一定のハードルはあるかと思えますが、そのあたりを今回の分析結果も踏まえて議論いただければと思います。

委員

分析結果の「転入の際の他市との比較検討について」ですが、「他のまちも検討したが、豊中市に決めた」と回答している割合が5割近くいます。この層を分析することで、他市と比較して豊中のどこを魅力に感じてもらえているのかを把握できるのではないのでしょうか。転入のときの行動分析につなげ、政策に展開できるのではないのでしょうか。

また数字を蓄積も重要だが、年度による変化もあるため、やはり安定的に毎年回答率を上げる工夫を講じてほしいです。

委員

抽選でも何かをもらえるというのは市民感情としては嬉しいので、沖縄旅行や地域ポイントのプレゼントなどはぜひ実施してほしいですね。また、アンケート対象者についてですが、転入してから1年経過した方に「実際住んでみて、当初の想像よりも良かった点や不便に感じた点」等を聞いてみるのはどうでしょうか。当初のイメージと実際住んでみてのギャップというのは重要な声だと思います。

委員

転入の際にインターネット環境から情報を収集していたという割合が非常に増えており、特に市のホームページを見た方の割合が上位を占めていますが、ホームページのどこの部分を見ていたかはわからないのでしょうか。そこを拾うことができれば、豊中市の何に魅力を感じているのかが明確にわかるのではないかと思います。

会長

ぜひ、統計的にも問題がないというレベルにさせていただき継続していただければ、データに基づいて議論ができるという強みになるのではないかと思います。引き続き回答率の向上に向けてよろしくお願ひしたいと思ひます。

■ 4. 令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業報告について

会長

続きまして、案件4「令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局

(【資料6】デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業報告について)説明)

委員

この交付金がまち・ひと・しごと創生総合戦略とどのような関係性があるのかが、以前の交付金と比較するとわかりづらくなりましたね。

事務局

従来の総合戦略と紐づいていた交付金は「地方創生推進交付金」や「地方創生拠点整備交付金」でしたが、岸田内閣の下で始動した「デジタル田園都市国家構想」における「デジタルの力で地方の個性を生かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図る」という目標に関連する交付金の総称を「デジタル田園都市国家構想交付金」と呼ぶことになりました。従来の2交付金もこの傘下に入る形となっております。

会長

デジタルの力で地域の課題解決や魅力向上の実現を図る取組みは今後も加速していくでしょうし、地域の活性化に欠かせないものになっていくと考えます。来年度以降も地域ビジョンの実現のために取組みを進めてほしいと思ひます。

■ 5. その他

会長

それでは、案件5「その他」について事務局からお願いします。

事務局

(連絡事項「今後の日程について」説明)

会長

本日の案件はすべて終了しました。これをもちまして「第2回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」を閉会いたします。

(以上)